

さよならバイスタンダー

「3月のライオン」のOP2

かわ そ はし でんしゃ おと
川沿いを走る電車の音

う つ む い て 咲 く 向 日 葵 の 色

ゆ う や
夕焼けがしましまのボーダーになる

「ありがとう」って君が言うたんび

な き も なん
泣きそうな気持ちになるのは何でだ

こ ども
子供みたいにさ

な み だ れ い そ う こ お
涙なら冷蔵庫に置いてきたはずだ

か う れ こ ほ
勝って嬉しい はないちもんめ あの娘が欲しい

さよならバイスタンダー ぼく ある い
僕らは歩いて行く

こ の ま ち ゆ さ い ご て ん ご く
この道行きの最後が 天国か そこらじゃあないとしても

た だ の き み わ ら た
ただの君と笑って立っていたいよ

ほ こ ね が き ほ う
誇らしさとか 願いとか 希望とか

も っ と ず っ と も あ
もっと ずっと 持ち合わせとくよ

こ わ く て こ わ く て こ わ く て し ず
こわくて こわくて こわくて沈みそうでも

あ の こ ち か
あの娘に誓うよ

さ こ
錆びついて壊れてるシェルター

なん ど か く
何度でも隠れてみたけど

あ た ま か く し り か く
頭隠して尻隠さずってやつさ

あ ま え あ ま え
当たり前は当たり前じゃない

さい の う と ち ゅ う う
才能は途中で生まれない

な ぜ さ い し ょ き
何故か最初から決まってる

ひ たい あ せ な が め し いた
額から汗が流れて目に沁みて痛い

ま こ
負けてくやしい はないちもんめ あの娘じゃあわからん

さよならバイスタンダー　^{いま}　^{ある}　今まで歩いてきた
つたない文字の^{も　じ}無邪気な^{む　じゃ　き}足取りが　^{あし　ど}　^{まちが}間違いだらけだとしても
^{よる}　^あ　夜は明けた　^{おお}　^{こえ}　大きな声で^{さけ}叫ぶよ
^{つつ}　慎ましさとか　^{こ　ど　く}　孤独とか　^{む　な}　空しさを
もっと^し知って^{あい}愛されていくよ
こわくて　こわくて　こわくて^な　^だ投げ出したくても
^{ぼく}　僕は　^{ぼく}　^{ちか}　僕に誓うよ

さよならバイスタンダー　^{ぼく}　^{ある}　僕は歩いて行く
この^{まち　ゆ}道行きの^{さい　ご}最後が　^{てん　ごく}　天国か　そこらじゃあないとしても
ただの^{き　み}君と^{わ　ら}笑って^た立っていたいよ
^{ほ　こ}　誇らしさとか　^{ね　が}　願いと　^{き　ぼう}　希望とか
もっと　ずっと　^も　^あ　持ち合わせとくよ
^{ま　も}　守るよ　^{ま　も}　守るよ　^{ぼく}　^{す　べ}　僕の^{さ　さ}全てを捧げ
^め　^{ま　え}　目の前の^{き　み}君に　^{ち　か}　誓うよ

かわぞいをはしるでんしゃのおと
川 沿 走 電車 音

うつむいてさくひまわりのいろ
咲 向日葵 色

ゆうやけがしましまのボーダーになる
夕 焼

「ありがとう」ってきみがいうたんび
君 言

なきそうなきもちになるのはなんでだ
泣 気 持 何

こどもみたいにさ
子 供

なみだなられいぞうこにおいてきたはずだ
涙 冷 蔵 庫 置

かってうれしい はないちもんめ あのこがほしい
勝 嬉 娘 欲

さよならバイスタンダー ぼくらはあるいていく
僕 歩 行

このまちゆきのさいごが てんごくか そこらじゃあないとしても
道 行 最 後 天 国

ただのきみとわらってたっていたいよ
君 笑 立

ほらしさとか ねがいとか きぼうとか
誇 願 希 望

もっと ずっと もちあわせとくよ
持 合

こわくて こわくて こわくてしずみそうでも
沈

あのこにちかうよ
娘 誓

さびついてこれてるシェルター
錆 壊

なんどでもかくれてみたけど
何 度 隠

あたまかくしてしりかくさずってやつさ
頭 隠 尻 隠

あたりまえはあたりまえじゃない
当 前 当 前

さいのうはとちゅうでうまれない
才 能 途 中 生

なぜかさいしょからきまってる

何故 最初 決

ひたいからあせがながれてめにしみていたい

額 汗 流 目 沁 痛

まけてくやしい はないちもんめ あのこじゃあわからん

負 娘

さよならバイスタンダー いままであるいてきた

今 歩

つたないもじのむじゃきなあしどりが まちがいだらけだとしても

文字 無 邪 気 足 取 間 違

よるはあけた おおきなこえでさけぶよ

夜 明 大 声 叫

つつましさとか こどくとか むなしさを

慎 孤 独 空

もっとしってあいされていくよ

知 愛

こわくて こわくて こわくてなげだしたくても

投 出

ぼくは ぼくにちかうよ

僕 僕 誓

さよならバイスタンダー ぼくらはあるいていく

僕 歩 行

このまちゆきのさいごが てんごくか そこらじゃあないとしても

道 行 最 後 天 国

ただのきみとわらってたっていたいよ

君 笑 立

ほこらしさとか ねがいとか きぼうとか

誇 願 希 望

もっと ずっと もちあわせとくよ

持 合

まもるよ まもるよ ぼくのすべてをささげ

守 守 僕 全 捧

めのまえのきみに ちかうよ

目 前 君 誓